



学園花の村機関紙第84号

2015年4月3日(金)

編集兼発行人 松井道夫

〒

(0537) 24-0101

Fax

24-0242

ダメよ、ダメ、ダメTPP

池守 幸一



いま進行中のTPPの交渉で、安倍さんは国会決議も何のその、米、牛肉、豚肉など、譲歩に次ぐ譲歩を重ね続けているようです。安倍さんの前のめり姿勢にもかかわらず、アメリカ国内での政府と議会のゴタゴタや盛り上がる反対運動など曲折も多く、最終期限と言われる6月までどうなっていくのか、なかなか見通せません。戦後一貫してアメリカの強圧に屈し続けてきた実績を考えると、靖国だけは例外だけど、締結の可能性は高いと思います。

工業の方が農業より経済効率が高いからTPPは国益にかなうという論法を安倍さんは考えているようです。一見合理的に見えますが、全

てを経済効率のモノサシに当てはめるわけで、部分の合理性の追求が全体の不合理につながる、そこを見ないとダメだと思うのです。

世間一般には、自民党は保守政党とされるが、本当に保守か。保守とは伝統や歴史、因習を固守すると言うこと。TPPで日本という国の社会システムを自由化する、国の全てを市場開放するといふのだから、自民党は保守ではさらさらなく、まあ、成長至上主義党、経済第一党と呼ぶのが妥当なところ。「おらあ保守だで自民党」って向きは考え直したほうがいい。TPPに反対する政党があれば、農業を守る。この国のかたちを守るというのだから、その方が本物の保守主義ってもんです。

話が飛んだけど、安倍さんは産業競争力会議とか、規制改革会議とかを作って「農業を農家がやるからうまくいかない、企業がやればうまくいく」って調子で、企業の農業参入と企業的大型農家にまかせようとすすめています。TPPで食料は輸入に頼り、農地は企業にまわそう。家族農業なんてものはいらないという時代をつくろうとしている。とんでもないことです。

これが保守政党のやることか、です。ただこうなれば、ならないことを祈りますが、小さい農業の出番です。食べ物はただ安いからと言って外国産がますます増える。少子高齢化は進み、人口は減少し、モノはあふれ、企業は海外輸出は続いて、雇用は失われ、失業者はあふれる。貧困化はますます進む。

その時、国民的規模で市民皆農が始まるはず。最高のぜいたくは自分で無農薬野菜を育て食す事だと多くの人が気づくのではないか。そうやって自分の家族の健康を守る。健康長寿の具体的な中身はこういうことだと、理解が一気に広がるでしょう。

TPPが始まって、そういう時代が来ないことを祈りつつ、その準備だけはしておきたい。時勢をよく見る人なら、都市近郊の荒廃農地なんか、争奪戦を始める、と見ます。